

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし24時間ケアサービスステーション
所在地	(〒 940 - 0098) 新潟県長岡市信濃2-6-18		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24時間365日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020年 9月 30日	従業者等自己評価 実施人数	(20) 人 ※管理者を含む
----------------	-----------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021年 2月 1日	出席人数(合計)	(37) 人 ※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (8人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (3人) <input type="checkbox"/> 利用者 (1人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (16人) <input type="checkbox"/> その他 (6人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	(令和2年度に向けて) 前回の改善計画	(令和2年度) 実施した具体的な取組	(令和2年度) 進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間研修計画及び個別年間計画の中で包括ケアシステムの意義やそれに関連した制度の理解を周知させていく。その研修は年度の初めに行うこととする。 ・推進会議の回数が少ない分、事業所の運営報告を「会報」として今後も発行していく。 ・推進会議の内容、意義を全職員に理解してもらうための機会を設け職員の力量の標準化を図ることとする。確実な伝達方法としては少人数のチームミーティングの際に計画担当責任者が指導していくこととする。 ・防災訓練を計画的に実行していく。 ・防犯について具体的に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の理解と知識を深める為、年度初めにヘルパー研修を通し学ぶ機会を設けた。 ・事業所報告として会報を発行したが定期発行ができなかった。 ・月1回の計画作成責任者を中心とした少人数制でのチームミーティングを実施し、ケアの統一や課題の検討、情報等の伝達を行った。 ・防災訓練(日中・夜間)を計画的に実施でき知識を深めることができた。非常通報訓練は年2回行った。 ・夜間帯の援助訪問での職員安全確保のため「ココセコム」(コール通報により警備会社から警備員が駆け付けるサービス)を導入した。また、護身術の研修を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間研修計画及び個別研修計画に沿って概ね計画通りに進めることができています。 ・事業所報告として会報という形で発行したが、定期的な発行できていない。 ・月1回チームミーティングを行い情報の共有、ケアの標準化に努めている。令和2年12月に定期随時の実地指導があり、職員周知に関して少人数制で行うチームミーティングに対して適正と評価された。 ・予定通りに実施したが、参加できる職員が限られた。非常通報訓練では安否確認メールで90%までの返答率であった。 ・「ココセコム」を導入し職員の安全と安心感に繋げることができた。

<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットは一般の方にも浸透してきている。それを踏まえた上で全職員が適切に活用できるよう他機関との連携をロールプレイ等で学習する機会を年間の中で組み立てて実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応が難しい事案に対して事業所内で少人数でのロールプレイを実施した。 ・チームミーティングも少人数の為、一人一人が意見しやすく、責任を持った中での視点や課題の提供、チーム内で対策を行って実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの時間を設け、他の対応方法を実際に可視化する事で個々の振り返りや同様の援助に結び付けることができる。また、「想い」についても共有する事で、精神的ストレスが緩和されている。 ・チーム制のミーティングにより課題提供やその対応が迅速に行われ、結果目標としている「丁寧なケア」にもつながっている。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットの活用はすでに一定の評価、成果ができてはいるが、情報の中からより早く課題を導く視点が必要のため職員ひとりひとりが積極的な提案をするように努めていく。事業所との連携は日々情報共有できているといえるが、課題によっては各種機関との連携によってより良い対応が可能であり、いっそうの強化を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネとの連絡もフェニックスネットを通して行う機会も増え、ネット上での共有から検討事案では早急に担当者会議に繋げる事ができた。また、見る側(連携先事業所)が解りやすいような記録の仕方を工夫した。 ・連携訪問看護事業所より、アセスメントをタブレット上に入力してもらう事で医療側での検討事項や、ヘルパーの関わり方についての助言を頂けた。 ・事業所内研修で他機関や多職種から講師として協力いただき、専門性に特化した研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中では、フェニックスネットを通しての情報共有は有効活用でき、検討事案などに対しても迅速に検討が行えている。 ・連携先訪問看護事業所からの医療側の視点での助言をタブレット上で確認でき、それにより安定したケアにつながっている。 ・事業所研修で多職種からの講義など講師で関わって頂いたことで、その後の相談しやすい関係、顔の見える関係性に近づいた。
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の定期発行を継続し一般市民への情報発信をしていく。 ・町内等の小単位での集まりに参加する、あるいは高齢者センター内での行事や研修等に地域の方から参加していただき、 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「まも～る通信」を年4回発行し、定期随時サービスを分かりやすい形で紹介する内容で広報することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「広報紙を読んだ」との声が聞かれるなど、少しずつ浸透してきている。 ・新型コロナ感染予防対策のため、地域の集まり等への参加は少ない状況となっている。

		<p>介護や福祉について考えて頂けるよう取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議では委員の方より専門分野からの情報提供をして頂く形で、地域性の把握や課題に結び付くようにした。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で町内の集まりなどへの参加は出来なかったが、「地域のお茶の間」に参加し地域の状況について触れる機会を持った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成担当者が「地域のお茶の間」に参加し、地域での福祉委員や民生委員の方々の活動に触れることができ、地域ニーズの把握に繋がった。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に課題を導き出し、多職種連携した支援の提供を図る。 新規利用者に対しフェニックスネットの同意を勧め、タブレット活用をさらに強化し、情報共有及び連携を図る事で、「ご本人が望む生活」が維持継続できる様に支援する。そのために、全職員が同じレベルでの対応ができるよう、個々の理解と習得力を養うとともに互いに切磋琢磨する。 ・担当毎でのチームカンファレンスを継続することで、利用者の状況把握とケアの見直し・意識統一を強化する。 ・広報誌『まも～る通信』定期発行をする。 ・安心して在宅での暮らしが継続できる様なサービス提供に向け、利用者満足度調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者に対しては契約時にフェニックスネットの説明を行い、概ね同意を頂けている。 ・情報共有の質を高めるために経過記録の内容等の検討を行い、全職員が同じレベルで対応できるように取り組んだ。 ・毎月のチームカンファレンスを継続し、状況把握に努めた。 ・利用者満足度調査を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットの同意から今後多職種との連携が可能となり、ご利用者自身により良いケアに繋がっていく事を説明している。 ・フェニックスネットでの連携による情報共有の内容について、事業所内のみで良い情報と他事業所と共有しなければならない情報を分けて入力していく事が必要。 ・チームカンファレンスでの検討内容及び開催方法等について再検討し、有効に開催実施できるように努めている。 ・満足度調査の結果を職員が受け止めて、そこから次のステップに進めるようにする。 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	(令和2年度) 評価結果	(令和3年度に向けて) 改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間研修計画及び個別研修計画に沿って概ね実施できた。 ・事業所の運営状況を報告する「会報」を定期的に発行することができなかった。 ・計画的に防災訓練を行えたが、参加できない職員もいるため、全職員に周知していく事が重要である。 ・訪問する職員の防犯対策ができ、特に夜間訪問する職員の安心感にも繋げる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めのヘルパー全体研修で理念と運営方針・業務目標を明確に理解したうえで業務遂行し、ケアの質の向上を目指す。 ・事業所の運営状況を客観化するため、推進委員に対して「会報」を定期的に発行する。 ・災害に対する対応訓練や、防犯対策の他、感染対策について具体的に動けるよう対策の評価修正を適宜行う。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の変化に応じた専門的なサービス提供に繋げるためにロールプレイを実施し、事業所内での情報共有、援助の統一にも繋がったが評価までは至らなかった。 ・各専門職の意見を聞き、事案に対して対応方法を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「その人らしい在宅生活の維持」ができるようにアセスメント力を強化し、援助に反映させていく。 ・職員一人一人の「気付き」の質を高めると共に、職員間の情報共有から課題検討、評価に繋がるよう、チームミーティングを継続する。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネット連携によるタブレットを活用した多職種、他事業所との連携に関しては、積極的に工夫し利用している。今年度より連携先訪問看護事業所からも毎月のアセスメントとヘルパーへの助言がタブレット上で見る事ができ、より医療と介護が連携しながら課題に迅速に対応できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携訪問看護事業所からの毎月のアセスメント及びモニタリングについて改めてご協力と周知をし、医療的視点を加えて良質なケアに繋げていく。 ・タブレット活用による日々の状況把握、そこから課題を導き出せるよう職員一人一人の「気付き」視点の強化、伝達力を高めていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の中で、地域への発信や関わりに対して積極的に行う事が出来なかった。 ・広報誌「まもーる通信」を定期発行でき、地域住民に対して情報発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の定期発行を継続する。 ・新型コロナウイルスの状況によるが、地域の集まり事が再開した場合は集まりに参加し、情報収集及び介護の情報を発信していく。

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットによる多職種、他事業所との積極的な連携により、利用者の状況や課題の共通認識、更に専門職の視点からの意見を把握することができ、安定した在宅生活が継続できるような支援に努めた。 ・計画作成担当者会議及び少人数チームミーティングの内容、開催方法等を再検討し、課題等に対して速やかに改善できる様な体制を整えることができた。 ・上記による会議やミーティングにより「理念」「運営方針」「業務目標」の共通認識を図り、ケアに実践に努めた。 ・地域住民に対し、広報誌による介護情報の発信を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットによる多職種、他事業所との積極的な連携と情報ツールとなる「team」ソフトの情報共有方法の工夫を行っていく。 ・具体的な目標設定や状態悪化や事故を防ぐことが出来る様に職員一人一人のアセスメント力、気付きの視点を強化する。 ・会議、ミーティング体制の質の向上を図り、支援体制の強化に努める。 ・介護報酬改定もあり、改めて制度の熟知と正しい運営を職員と共有しながら、地域と共にできることを発信していく。 ・推進会議・アンケート調査・自己評価等の取り組みをしっかりとフィードバックし、課題に対しての改善・目標に向けての取り組みを行う。
---------------------------------	---	--

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します